

事業所名	国立病院機構青森病院 通園あお空		支援プログラム（参考様式）		作成日	R6	年	12	月	1	日
法人（事業所）理念	【信条】病める人には安らぎを、健やかな人には幸せを 括的医療と地域ニーズに応じた二次医療施設を目指します 【使命】国立病院の政策医療と地域ニーズに応じた一般医療を行います 【展望】各種障害者（難病）のニーズに応える包										
支援方針	重症心身障害児・者（以下「重症児・者」という。）を主たる対象とし、通園の方法により、日常生活動作、運動機能等に関わる訓練、指導等必要な療育を行うことにより、運動機能の低下を防止するとともに、その発達を促し、併せて保護者等に家庭における療育技術を習得させ、以て在宅重症児・者の福祉の増進に資するよう支援に努める。										
営業時間	8 時	30 分	から	16 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり	なし		
支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者本人の障害特性や好み、小さなサインから心身の変化に気付けるよう、きめ細かな観察を行い、健康状態の維持に努める。</li> <li>本人に必要なケアを受けられるよう、障害特性や医療度に応じたケアの実施や医療機器の準備・環境整備を行う。</li> <li>通園あお空での食事、服薬、排泄、日中活動等を通し、生活リズムの習慣化及び利用者本人の機能が維持・向上ができるよう支援を行う。</li> <li>室温・湿度の調整や換気、室内環境に合わせた衣類の調整を行うことで疾病の予防や安全への配慮に努める。</li> <li>生活の中で、様々な遊びを通じた学びやスキル習得が促進されるよう環境整備を行う。また、定期的な日中活動を通じて時間や空間、他者とのかかわりを構造化する。</li> <li>筋緊張や発作に繋がるサインを緩和する環境づくりや遊び、姿勢管理への支援を通して健康状態の維持・改善を図るよう努める。</li> </ul>									
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢保持装置や補助具等を活用して、日常生活に必要な姿勢保持や上肢・下肢の運動、動作改善及び習得の促進、関節拘縮や変形の予防、筋力の維持・増進を図る。</li> <li>車椅子、ストレッチャー、ベッド等を活用して移動能力の向上や保有する感覚を活用できるよう努める。</li> <li>日中活動にて季節に応じた遊び、職員とのかかわりなどを通して保有する五感や前庭覚、固有覚等の活用によって感覚統合に繋がるよう支援する。また、障害や興味関心に応じて本人が状況を把握でき、補助機器の活用やスタッフの支援によりほかの感覚や機器による代行ができるよう支援を行う。</li> <li>感覚過敏や鈍麻等、本人の感覚の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。</li> </ul>									
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の特性や好み等の認知特性を踏まえ、利用者本人が獲得する情報を処理できるよう支援を行う。</li> <li>視覚、聴覚、触覚等の感覚を活用して、情報を取得し、分析する認知機能の発達及び応用を促す支援を行う。</li> <li>取得した情報から環境や状況を理解でき、それに対する判断や行動に繋がれるよう支援を行う。</li> <li>物の機能や属性、形、色、音が変化の様子、大きさ、数、重さ、空間、時間などの概念形成を図ることで、それらを認知や行動の手がかりとして活用できるよう支援する。</li> <li>感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さから生じる二次的障害の予防及び行動への支援を行う。</li> </ul>									
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語だけではなく、表情や身振り、補助機器等を用いてコミュニケーションが図れるよう、基礎的な能力を身に着けるための支援を行う。</li> <li>場面における人との相互作用を通して注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力向上のための支援を行う。</li> <li>身振り、サイン、音声、触覚、平易な表現などによる多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。</li> </ul>									
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境や人へ安心感や信頼感を持つことができるとともに、自己肯定感を育む支援を行う。</li> <li>安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけることができるよう、「安心の基地」の役割を担う支援を行う。</li> <li>遊び等を通じて相手の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。</li> <li>発達段階に沿った遊びの提供を通して、徐々に社会性の発達に繋げる支援を行う。</li> <li>スタッフや保護者を介在して自分のできることや苦手なこと等の自己理解とともに、気持ちの情動の調整ができるよう支援する。</li> <li>集団に参加するための手順やルールを理解し、本人の希望に合わせて遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに他者と活動することを通して、相互理解や仲間づくりに繋がるよう支援する。</li> </ul>									
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の信頼感を育み、家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。</li> <li>家族の子育てに関する困りごとや具体的な支援方法等についての相談援助及び助言・提案。</li> <li>本人のニーズや特性の理解等に対する気づきの促しとその後の支援を行う。</li> <li>家族のレスパイト時間の確保や就労等による預かりニーズに対応する支援を行う。</li> <li>保護者やきょうだいとの交流の機会の提供。</li> <li>家族に対する支援場面を通じた学びの機会を提供。</li> </ul>				移行支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>成人への移行を見据えた本人のニーズや発達・能力の評価や支援。</li> <li>移行先との調整や情報共有、相談援助を行う。また、移行先の受け入れ体制への協力を行う。</li> <li>進路や移行先の選択について本人や家族へ相談援助を行う。</li> <li>併行利用先と情報や支援ニーズに対する情報共有。</li> <li>地域の他事業所や保育所等の関係機関との繋がりと地域住民との交流。</li> </ul>				
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人を支援する関係機関との情報共有や調整・会議の開催。（保育所、障害児通所支援事業所、行政機関、医療機関等）</li> <li>個別のケース検討会議の開催。</li> </ul>				職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>院内及び法人内、または院外での研修へ積極的に参加し、スタッフの技能向上や支援観を振り返る機会を設ける</li> <li>定期的な会議や情報共有を行い、利用者本人に対する支援体制を共有する。</li> </ul>				
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏祭り（年度により設定）</li> <li>クリスマス会（12月）</li> <li>外出行事（年度により設定）</li> <li>お楽しみ会（年度により設定）</li> <li>成人式（1月）</li> </ul>										